

み や さ き も り

宇都宮の防人



宇都宮駐屯地公式HP



駐屯地マスコットキャラ
『宇駐人』くん

<https://www.mod.go.jp/gsd/utunomiya/utsunomiyahp/index.html>

第42代宇都宮駐屯地司令着任



東部方面特科連隊長から紹介を受ける第2大隊長



もり あつし
森 温 2 佐

第2代東部方面特科連隊第2大隊長兼
第42代宇都宮駐屯地司令



着任式での巡閲



初代東部方面特科連隊
第2大隊長兼
第41代宇都宮駐屯地司令
津田2佐は
陸上幕僚監部人事教育部
(市ヶ谷)へ
お世話になりました

令和6年3月18日、第2代東部方面特科連隊第2大隊長兼ねて第42代宇都宮駐屯地司令、森温(もりあつし)2佐の着任式が執り行われた。式は東部方面特科連隊長(水越1佐)立会のもと、駐屯地各部隊長の陪列を得て行われた。
森2佐は、統率方針として「和」を掲げ、乱れつつある世界情勢の中、自衛隊は国防や災害対処などあらゆる任務に即応することが重要であるため、射撃によって任務を達成する我々特科部隊は、平素から親愛の情を育み常に心身ともに健全であり続け、防衛や災害派遣等の任務達成後も仲間とともに生きて家に帰れるよう日々訓練に励んでもらいたいと、「生き残って撃て 撃つた後も生き残れ」を隊員に要望した。そしてその任務達成のため自らも汗をかき知恵を絞り、共に隊務を遂行していくことを誓うと力強く着任の辞を述べた。



第20次

派遣海賊対処行動支援隊帰国



帰国報告

陸上自衛隊宇都宮駐屯地に所在する中央即応連隊（連隊長 堀口大助 1等陸佐）から、アフリカ東部のジブチ共和国でソマリア沖アデン湾における海賊対処行動支援任務に従事した第20次派遣海賊対処行動支援隊が、令和6年2月2日（金）に約半年間の任務を完了し日本に無事帰国した。成田空港及び駐屯地では、連隊長や所属隊員をはじめ、派遣隊員のご家族が出迎え、隊員との約半年ぶりの再会を喜んだ。

連隊は、2月5日（月）に帰国行事を行い、派遣隊員を代表して警衛隊長が派遣間の各種支援に対する感謝と任務を完了し無事帰国できた喜びについて述べた。連隊長からは「任務完了、そして無事の帰国、本当にご苦労様。それぞれの職責を果たして無事帰ってきたことは非常に素晴らしい。本当によくやった。連隊長として誇りに思う。」と隊員の労をねぎらうとともに「即応が日常であるということは変わらない。休むと同時に次の任務に備えてもらいたい。」と訓示した。

連隊の同任務での派遣は通算17回目、アデン湾における海上交通の安全確保に寄与した。

戦技指導者(衛生)
集合教育



中央即応連隊（連隊長 堀口大助 1等陸佐）は、令和6年1月15日（月）から2月2日（金）までの間、宇都宮駐屯地において「令和5年度戦技指導者（衛生）集合教育」を実施した。本教育は、衛生指導者及び補助担架員として必要な知識・技能を修得させるとともに、衛生科隊員不在時に適切な応急処置が実施できる隊員を育成することを目的に行われた。

教育では「止血法」「心肺蘇生法」「患者搬送」「暗所・騒音下での観察・処置」など、様々な課題を実施して、応急処置能力の向上及び後送能力の強化を図り、あらゆる環境下においても命を救える隊員の育成を図った。総合訓練においては、担架班の行動を一連の状況下で演練し、被教育者は複数の負傷者に対してトリアージを行い、MARCHと呼ばれる初期観察手順に従って負傷者を観察し、必要により大量出血や開放性気胸等の処置を実施して患者集合点まで負傷者を搬送した。処置中や搬送途中に敵の銃撃や砲弾落下等の状況付与がなされる中、自己防護や周囲を警戒しつつ患者の観察を行い、容体の急変や負傷部位からの再出血等に対して適切に処置を実施した。

訓練担任官である本部管理中隊長は修了申告において「衛生に関する知識は日進月歩であり、1年経てば変わるところも多い。最新の知識を持つ皆が各中隊等に戻って知識・技術の普及に努めてもらいたい。」と訓示した。

教育に参加した隊員からは「駐屯地外において負傷者が発生した状況に遭遇しても、臆することなく人命救助ができる自信がついた」「今回の教育で学んだことを中隊に還元し、今後、衛生指導者を希望する隊員が増えるような取り組みをしていきたい。」などの声が聞かれた。



負傷者の観察・処置



フォックストロットリッターによる患者搬送

大隊ゲリコマ対処訓練



HMGによる重要施設防護



不法行動における防護部隊と対処部隊の連携



東部方面特科連隊第2大隊（大隊長 津田裕介 2等陸佐）は令和6年1月29日から2月2日までの間、宇都宮駐屯地において大隊ゲリコマ対処訓練を実施し、施設防護及び不法行動対処要領について演練するとともに、第13普通科連隊の支援を受け、市街地戦における小部隊の行動及びファーストエイド等の各個動作の洗練に努めた。2月1日の総合訓練においては、第4第5中隊が防護する施設に対して各種状況が付与され、各種対処要領及び防護部隊と対処部隊の連携要領について練度を確認した。

本訓練により、小部隊の連携から各個動作に至るまでの各種動作を演練することができ、各隊員がゲリコマ対処行動の実効性を向上させることができた。

上級・初級施設特技検定



三角航行



軽門橋構築



二重点火回路構成

第307施設隊（隊長 近藤秀憲 2等陸佐）は1月15日から26日までの間、宇都宮駐屯地及び利根川河川敷において上級・初級施設特技検定を担任し、当該特技の練度を評価・判定するとともに、その進歩向上を促した。

検定については、学科試験の他、上級検定は地雷原構成、指向性散弾の設置、二重点火回路構成についての指揮法と指導法を、初級検定は連結、地雷の探知・除去、二重点火回路構成の実技を実施した。また、利根川河川敷において、渡河に係る軽門橋構築と三角航行を実施して、全受検者が合格し、特技を習得した。

主任教官を務めた関根3尉は、「検定に際して、各部隊での事前訓練、検定期間内の準備訓練及び実技検定を通じ、受検者の施設手及び分・班長としての識能の向上を図ることができた。引き続き施設技術の練度向上に努めてもらいたい。」と語った。

4 / 四期(1~3月)業務実績



宇都宮駐屯地業務隊(隊長 猪瀬智 2等陸佐)は2月19日から3月1日までの間、駐屯地内での不用品処分を実施しコンテナ10台を各部隊に配当し、駐屯地内の環境整備・美化及び倉庫等の整理を推進した。

また、2月27日部外講師を招き、#3駐屯地MHC教育を実施した。各種ハラスメントについて教育を受け、ハラスメント防止・働きやすい職場環境・職場におけるストレス要因の極小化について意識向上を図ることができた。

その他の事業として2月13日から3日間、駐屯部隊からの参加者15名に対して#3駐屯地給食実習を実施し不測事態に備えるとともに、各部隊の炊事要員等の調理技術の向上を図り野外給食の練度向上に寄与したほか、中央即応連隊海外派遣に係る要員指定時の健康診断及び帰国時検診・出国前検診等、約百名の診断を実施した。



駐屯地内の環境美化



各種健康診断の実施



駐屯地メンタルヘルス教育



各部隊炊事要員による給食実習



駐屯地内の雪景色



3月に入っても、雪の舞う日もありましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。我々自衛官も花粉や寒暖差と戦いながら体調管理しつつ、いついかなる時でも任務達成できるように、日々の訓練に励んでおります。

さて、来る4月6日(土)はいよいよ駐屯地創立74周年記念行事です。駐屯地内では各種訓練等の合間を縫って、会場や訓練展示の準備等が着々と進んでおります。今年は桜の開花も、行事に合わせてくれるかのようにゆっくりと進んでいるようですので、桜の花とのコラボレーションが楽しみです。



記念式典のために構築した観閲台の安全点検中